

# カチコチ村の小さな泉

## ○登場人物

カチコチ村にやってきた少年・はると

その現代っ子の兄・りひと

カチコチ村に住む従姉妹・かのん

カチコチ村の神社に住み着いている謎の少年・かん  
いかにも何かありそうな記憶のない女の子・しづな

猫のポチ

犬のタマ

狒犬ああん

狒猫ううん

## S I カチコチ村のさらに外れにある家

はると

その日、お母さんが死んだ。なんとかかんとかいうムズカシイ名前のびょうきで、大人はいろいろ言っていたけど、きつとそうなんだろうなあ、とおもっていたから、べつにおどろきもしなかった。でも、たぶんほんとうには、なにもわかっていなかったんだとおもう。だってその日から、ぼくたちのくらしは、なにもかもかわってしまっただ。

そこはどイナカの山の中にある村の、さらにはずれにある家。  
気合いの入った様子の父と、地獄に来たような顔つきのりひとが出てくる。

父 ということで、今日から父さんと三人、新しい生活を始めるぞ！

りひと はーい…。

父 で、ここが我が家となるわけだが…見ての通り、家の中には何もない！  
何もないねえ。

父 家の外にも何もない！

りひと ないねえ。

父 要するにここは、どイナカだ！

りひと どイナカ！

父 山と田んぼ以外は何もないから覚悟をしておけ！

りひと スマホあるから別にいいや。

父 ハッハッハッ！残念だが、電気は夜しか通らない！

りひと は！？

父 ちなみに電波も届かない！

りひと は！？

父 当然、ネット回線なんかあるわけないから、あきらめろ！  
りひと ちよつと待ってよ！それでどうやって生きていくわけ？  
父 そんなの決まってるだろう。家族仲良く、手を取り合って、支え合い…。  
りひと 無理でしょ。今どき電気もネットもないとか、ありえないでしょ。  
父 ま、そのうちなんとかするさ。  
りひと いやいや…なんとかかって、なんとかできるわけないでしょ。

そんな騒ぎの中、はるとは一人、犬のタマと遊んでいる。

りひと おい、お前もなんとか言えよ！

はると オレ、タマとあそぶから、べつにいい。

りひと はあ！？

父 うんうん。子供たるもの、どこにいたって、楽しみは見つけられるものだ。

りひと サイアクだ…。

父 さあ、今日は忙しいぞ！まずは家中の掃除をして、荷物を解いて…そうだ、とりあ

えず飯を食べるようにしないと。その辺に食べにいくってわけにもいかないから  
な。

りひと がんばってくださいーい。

行こうとするりひとの肩を、父はすかさずガシッと捕まえた。

父 どこへいく。

りひと ちよつとはなしてよ！

父 言っただろ。家族仲良く、手を取り合って、支え合い…。

りひと やだやだ、絶対やだ！

父 さあ、来い！

そう言うと、父はりひとを無理やり引きずっていく。

そこに、かのんがやって来た。

母親から、様子を見てくるようにと頼まれたのだ。

かのん こんにちは。

父 ああ、かのんちゃんか。こんにちは。

りひと だれ？

母さんのお兄さんのお嫁さんのお母さんの生まれた町に古くから伝わる言い伝えに  
よると昔々あるところに住んでいたおじいさんとおばあさんの孫の孫のそのまた孫  
の…。

一言で。

いとこだ。

じゃ、そう言えよ。

ちよつと良かった。はるととタマを連れて、この辺を案内してあげてくれないか。

散歩のとき、迷ったら大変だからな。

わかりました。

いい子だねえ…。よし、行くぞ！

ねえ、なんでオレだけなの！？ハルは！？ねえ！？

あきらめろ！

父 父は強引に、りひとを連れていく。

兄に生まれた者のカコクな宿命である。

かのははるとのところに行く、しゃがみこんでタマを不思議そうに見る。  
…どこからどう見ても、犬だ。

かのは  
はると  
こんにちは。

かのは  
はると  
うん。

かのは  
はると  
…犬？

かのは  
はると  
うん。

かのは  
はると  
タマ？

かのは  
はると  
うん。

かのは  
はると  
犬なの？

かのは  
はると  
父さんがつけたんだ。ぼくはイヤだったんだけど、言い出したらきかないから。

かのは  
はると  
子どもみたい。

かのは  
はると  
そうなんだ。たいへんだよ、つきあうのも。

かのは  
はると  
でも、たのしそうだね。

かのは  
はると  
…。

かのは  
はると  
お父さん。

かのは  
はると  
あれはウソだよ。

かのは  
はると  
ウソ？

かのは  
はると  
父さんがはしゃぐのは、だいたいイヤなことか、かなしいことがあったときなんだ。お母さんが死んじゃってから、父さんは毎日あんなかんじ。イヤなつちやうよ。

かのは  
はると  
(うなずいて) 子供ってスルドイ。

かのは  
はると  
ふーん、たいへんなんだ。

かのは  
はると  
うん。

かのはは立ち上がる。

かのは  
はると  
じゃ、行こつか。

かのは  
はると  
え？

かのは  
はると  
案内。お父さんが言ってたでしょ。

かのは  
はると  
…。

かのは  
はると  
いいところにつれて行ってあげる。

かのは  
はると  
いいところ？

このちかくにね、大きな神社があるんだ。レーケンがアラタカだから、どんな願いごともかなうって、お母さんが言ってたよ。

はるとはちよつと考える。

どこかに出かけたい気分でもなかったから。

かのは  
はると  
行きたくない？

かのは  
はると  
…ううん。家にいるより、ぜんぜんいいよ。

かのは  
はると  
じゃ、いこう。

二人は家を出て、山道をかけていった。

S 2

カチコチ村の山の中にあるオンボロの神社

オンボロ神社の境内に、猫のポチがあわてふためいた様子で駆け込んでくる。

ポチ 大変だー！ 大変、大変、大変だー！

それを聞いて、飛び出してくるかん。

かん どうした、ポチ！

ポチ ニャー！ ニャニャニャ、ニャーニャー、ニャー！  
かん 落ちて着け！

かん、ポチをなぐる。  
いつものことだから、心配はいらない。

ポチ すいません！

ポチの後からついて来ていた少女、特にあわてた様子もなく、

少女 シンニューシャよ、おにいちゃん。

かん なに！？

少女 だれかがこの神社じんじやにはいつてきたみたい。

かん なんだと！？

ポチ これはキンキュージタイです！ ここにはだれも入ってはならぬと、村人たちにはウマと言いついて聞かせてあるはず…！

……。

……。

シカと、な。

かん ポチ、顔を見合わせると爆笑する。

ポチ ウマと…！

かん シカと…！

二人、笑い続けている。

これも、いつものことだ。

そんな中、シンニューシャであるところの、はるととかのん、犬のタマは、とつくと近くまで来ている。

で、侵入者はどこだ？

あそこです。

かん？

かん、二人の姿に気がついて、またポチをなぐる。

かん もうそこまで来てるじゃねえか！

ポチ すいません！

かん お前たち、何者だ。何しに来た！

かんはあわてて二人に向かい合うが、二人はポチの方をまじまじと見て、

かのん ネコ？

少女 ネコよ。

かん ネコだ。

ポチ ネコです。

はると・かのん しゃべった！？

ポチ 恐れることはありません。私はこの神社の神様を守るようにおおせつかった下っぱの神様のかつていた猫の友達！ポチです。

はると ネコなのに！？

ポチ ネコだけに！

すると、タマがさもかしこまった調子で進み出てくる。

タマ これはごあいさつが遅くなりました。

はると・かのん タマもしゃべった！

二人ははじめてタマがしゃべるのを聞いたのである。

たぶん、神社の神様の力である。たぶん。

タマ 私は犬のタマです。ただの犬のタマです。

ポチ これはこれは。

タマ どうもどうも。

ペコペコと頭を下げる、犬のタマと猫のポチ。

はるととかのんは、目の前で起こっていることがよく分からない。

ポチ して、タマ殿。此度のご用向きはいかに。

タマ はっ、突然のお尋ね、失礼つかまつる。我が主の一家がこの地に住まいを構えるにあたり、まずは土地神様にご挨拶をと、急ぎ馳せ参じた次第。

ポチ ほう。

かん おーい、ポチー。

はると タマー。

タマ どうぞよろしくお取り次ぎくださいませ。

かん 聞いてるー？

はると きいてるー？

ポチ これはこれはご丁寧に：

かん ポチ！

ポチ (思わず) ワン！

かん ワンじゃねえよ。お前は猫だろ。

ポチ あ、すいません。

かん ……つたく、しょうがねえな。おい、お前ら、もういいだろ。さっさと出ていけよ。

ポチ そう言うと、かんは二人を追い払おうとする。

かのん あなたはだれ？この神社の人なの？

かん いや、旅の者だ。

はると  
かん  
かのん  
かん  
かのん  
かのん  
かのん  
かん  
はると  
なんだよ。じゃあ、エラそうに言うなよ。  
オレたちはここに大事な用事があるんだ。ジャマされたくないんだよ。  
ひよつとして、あなたたちも願いをかなえにきたの？  
願い？  
この神社、レーケンがアラタカでどんな願いもかなうって、お母さんが。  
…ちよつと違うな。  
ちがう？  
どんな願いもかなうんじゃない。ここには、どんなキズもなおせる不思議な泉があるんだ。

ここで、ポチの解説タイムだ。

ポチ  
それはむかし昔のこと、ここにはこんこんと湧き出でる、小さな泉がありました。その泉には、どんな傷でもたちどころになおしてしまふ不思議な力があり、人々は泉のおかげでとても幸せに暮らしていました。ところがあるとき、欲深い男が泉を独り占めにしようとしたため、神様がお怒りになり、この地への立ち入りを禁じたのです。人々はここに神社を建て、神様の怒りを鎮めようとしましたがすっかりへソを曲げた神様はお許しにならず、気がつけばそれから千と何百年…。  
今じゃもう、だれも泉のことなんか知らないし、信じちゃいないのさ。  
かん  
はると・かのん　へえく。

かのんは、かんを見ながら不思議そうに、  
どこかわるいの？  
なんだよ。  
だつて…泉をさがしてるんでしょ？

かんは、ちよつと言いつらそうに、少女を見る。

かん  
はると  
かん  
はると  
…オレじゃない。妹さ。  
いもうと？  
こいつは目が見えない。記憶もない。覚えているのは、まだ目が見えたころの、ほんのわずかな楽しかった記憶だけ。

少女は、まるで他人事のように、ポチと遊んでいる。

かん  
オレはこいつに、幸せになってもらいたい。だから泉の力で、こいつの目をなおしてやりたいんだ。

はるとは、少女に近づいて、

はると  
少女  
はると  
少女  
はると  
はると  
こんにちは。  
こんにちは。  
ぼくは、はると。きみは？  
わかんない。  
そつか。

やつぱり、少女はポチと遊んでいる。

かのん  
かね  
ねえ、その泉はどこにあるの？  
神社のどこかに、入り口があるはずなんだ。でもどんなに探しても見つからなくて  
…。

かのん  
はると  
わたしたちも、いつしよにさがそうよ。  
え？  
家にいるより、ぜんぜんいいでしょ。

はるとは、ちよつと考えて…

はると  
そうだね。やるよ。

勝手に話を進められたかねは、ちよつと不満げに、

かん  
…勝手にしろよ。

そんな思いを無視して、ポチは暑苦しく頭を下げる。

ポチ  
みんな  
主人に代わりまして、厚く御礼申し上げたてまつ…。  
うるさい！

みんな、ポチをける。

かのん  
それから、私たちは毎日神社にあつまつて、泉をさがしました。でも、ずっとずつ  
とむかしにつかわれなくなった入り口は、ちつとも見つかりませんでした。

### S 3 カチコチ村のさらに外れにある家

そんなある日、家ではあいかわらず元気な父と、やる気ゼロのりひとが働いていた。

父  
あるこうく♪あるこうく♪

りひと  
子牛をのせくて〜♪

父  
あるくの〜だいすき〜♪

りひと  
荷馬車はゆ〜れ〜る〜♪

父は、気持ち良さそうに大きく伸びをする。

父  
今日もいい天気だなく！さあ、もりもり食つて、ピシバシ働こう！

が、りひとはその場に大の字になって寝っ転がる。

りひと  
やだ！

父  
なに！？

りひと  
今日はもう、ぜーったいに働かないぞ！

父  
何を言ってるんだ。

父  
我々は社長に対し、タイグーのカイゼンをヨーキューする！  
ナニ！？

りひと 連日のカジューロードーは、雇用契約に明らかに違反しており、何らかの改善が行  
られない限りは、これ以上、勤務を続けることはできません！  
父 なんかもズカシイこと言ってる。  
りひと つまり、ストライキだ！  
父 ストライキ！？

二人は相手を油断なくにらみながら、交渉のテーブルにつく。  
そこはもはや、戦いの場だ。

父 要求を言え。

りひと 毎月のおこづかいを、500円アップしてもらおう。あとはボーナスとして新作の  
ゲームソフト3本。

父 話にならない。この作業は住み始めるために必要な一時的なものだ。来月にはなく  
なる仕事のために、毎月のベースアップは認められん！ゲームソフト1本、これが  
せいぜいだ。

本当にそうかな？

りひと

なに？

りひと こんなところに住んでれば、毎日トラブルが起こることは目に見えてる。その度に  
「家族は力を合わせて」とか言って働かせるつもりだろう！

父 ギクッ！バレてる！

りひと こづかいアップ、ソフト2本！

父 し、しかし、いきなり500円は法外だ。毎年100円ずつのアップでどうだ？

りひと 話にならない。ただちに300円アップ、残りは3ヶ月待つてやる。これがリミッ  
トだ。

父 できるわけがない！

りひとは、やれやれというように首を振る。

りひと この手は使いたくなかったが、しかたない…。これを見る。

そう言つて差し出したのは、一枚の写真である。

父 こ、これは…！

りひと 先日、お前がコンビニで買い食いをした時の写真だ。この時、手に持っているのは  
…タケノコだな？

父 ち、ちがう！

りひと お前は母さんと結婚した時、キノコに忠誠を誓ったはずだ！それとも、母さんが死  
んだから、許されると思つたのか。オレたち兄弟は、キノコ原理主義者だぞ！  
父 話を聞いてくれ！あれはほんの出来心なんだ。

裏切りものめ！この写真がバラまかれたらどうなるか…分かるな？

父、ついにくずれ落ちる。

父 …分かった、要求を飲もう。

りひと ヨシッ！

父 ううう…母さん、すまん…。

そこに、はるとが出てくる。



あいかわらず、家族に対しては距離をおいているようである。  
あ、ハル。やったぞ、新しいゲーム、買ってくれるって。  
そう。  
お前もたまには家のこと、手伝えよ。今ならおこづかい、いくらでももらえるぞ。  
いいよ、オレ、やることあるんだ。

そう言うよ、はるとは家を出て行くとする。

りひと おい、ちょっと待てよ。

はると ……。

りひと お前、毎日どこに行ってるんだよ？

はると ……。

りひと オレだって遊びたいのがマンしてやってんだからさ、お前だってちょっとは手伝いしろよな。

はると べつにあそんでるわけじゃないよ。

りひと じゃ、なんだよ。

はると ……。

りひと 遊びだろ。

はると ……ちがうよ。

そう言うよ、はるとは引き止めるりひとを無視して、家を出て行く。

りひと おい、ハル！

りひとは、見るからに不満げだ。

りひと ……なんだよ、あいつ。

父は、そんなりひとをなだめるように、肩をたたく。

父 まあ、そう言うな。

りひと だってさ、

父 あいつには、あいつなりのペースがあるんだよ。

りひと ペース？なんの？

父 受け入れるペースだよ。

りひと ……。

父 やり方も、かかる時間も違う。放つといてやれ。

りひと じゃ、オレは？

父 んん…お前はアニキだからな。しかたない。

りひと あー！ひどい、兄差別だ！

父 いいじゃないか、オレを一人にしないでくれよ！

りひと 知らん！

父 ……。

りひとは、父をほうり出して、あらっぽく家を出て行った。

それを見送ると、大きくため息をつく父。

父 やれやれ：難しいな…。

父は、空を見上げて、

父 君なら、こんな時、どんな風に声をかけてあげたんだろうな。もし君なら、こんな時君だったら：毎日、そんなことばかり考えてる。：ダメだなあ、オレは。

…と、父はハタと気づいて…

父 …あー！しまった、逃げられた！コラ、待て〜！小遣い上げてやらねえぞ！

父、りひとを追いかけて行く。

## S 4 神社の中の秘密の入り口の奥の秘密の扉の前

いろいろあつて、そこは泉があるであろう、神社の奥の扉の前だ。  
かんを中心に、はると、かのん、少女が集まっている。

かん と、いうことで、我々はいかに、泉のありかへの入口を見つけたのです！

みんな おおー！

みんな、拍手！

はると どこにあつたの？

かん 神社の「中」に、秘密の入り口があつてな。

はると・かのん 中！？

かのん どうして、いままで見つからなかったの？

少女 おにいちゃんが、そのうえでねてた。

はると なんだそりや！

ハルトとかのんは、思わずズッコケる。

かん とまあ、それはおいといて…。さつそく泉に行きたいんだが、ちよつと問題がある。

かのん もんだい？

かん これだ！

その言葉とともに出て来たのは、狛犬の「ああん」と、狛猫の「ううん」だ。  
タマとポチにそつくりだが、気にしてはいけない。

狛犬 あ 私は泉を守る狛犬のああん。

狛猫 ううん。

あ・うん ここから先は通しません！

あ・うんの姿を見て、はるとは首をかしげる。

はると なんかあいつら、見たことあるような…。

かのん たぶん、気にしちゃいけないやつよ。

だから、気にはしていない。

狛犬あ 泉を求める者よ！この泉に入れるのは、心正しい者だけ。

狛猫うん 入りたければ、我々の出すナゾをとくがいい。

かのん ……とけなかつたの？

かのん ハーッハッハッハッ！

少女 とけなかつたの。

かのん む、無念…。

かのん、うなだれる。

狛犬あ では行きますよ…第一問！

ジャジャン！

狛猫うん 「お風呂」とかけまして「モグラたたき」と解きます。その心は？

はると おふろ？

かのん モグラたたき？

かのん な？な？分かんないだろ？分かんないんだよ。

少女 おにいちゃん、うるさい。

考え続ける二人。

その間、あ・うんはお風呂に入るフリとモグラたたきのフリをしている。

狛猫うん はー極楽極楽…。

狛犬あ (ハンマーをふりまわし) ぶっころーす！

それを見ていたかのん、ハタと気づいて、

かのん あ、わかった。こたえは…ポカポカする！

狛猫うん ぐはっ！

正解され、はげしくダメージを受けて、倒れるううん。

狛猫うん く…ここまでか…。

狛犬あ ううん！

狛猫うん あとは…まかせた…！ガクッ！

狛犬あ ううん！！

悲劇的な二人の別れ…を無視して、明るくもり上がる挑戦者チーム。

かのん よーし、それじゃあさつそく、第二問行ってみよー！

狛犬あ クッ…いいでしょう。…が！この問題は、あなたたちには絶対に解けない。いいえ、

理解さえできないわ。第二問！

ジャジャン！

狛犬あ 「3キロのランニング」とかけまして「去年のズボン」と解きます。その心は？  
かん 3キロのランニング？？  
かのん 去年のズボン？？  
かん なんだそりゃ！？

またまた頭をなやませる、みんな。

狛犬あ わっかんないでしょーわっかるわけないわー。

ヨユーをぶちかまして、踊っているああんだったが、それを見ていたはるとはふと、あることを思い出す。

はると ぼく…わかった気がする。

狛犬あ なんですって！？

かのん ホント！？

はると 母さんがまだ元気だったころ、言ってたんだ。3キロのランニングも…

狛犬あ いや…

はると 去年のズボンも…

狛犬あ やめて…やめて…！

はると マジでキツいって。

ガーン…！

ああんは、はげしいダメージを受けてぶっ倒れた！

狛猫うん

ああん！

狛犬あ

そう、そうなのよ…！そうしてウエストがキツくなる度、ランニングもキツくなっ

狛猫うん

ていくのよ…ガクッ！

ああん！

瀕死のあ・うん。

挑戦者チームは、勝利を確信し、二人に近づいていく。

かん

よーし、ナゾは解いたぞ！さあ、扉を開けろ！

少女

おにいちゃん、なにもしてないけどね。

かん

グサ！

しかし、あ・うんは最後の力を振り絞って立ち上がる。

狛犬あ

残念だが、最後の問題がある。

狛猫うん

この問題を解かない限り、扉は開けられない。

みんな

えーっ！？

狛猫あ

最後はあなたたちの心を試させてもらうわ。

はると

心？

かのん

どういうこと？

かん

なあに、この調子でいけば、楽勝楽勝！な！

……

かん  
狛猫うん  
（スルーして）さあ、かかってこーい！  
では…。

あ・うんは、さつきまでとはちよつと様子が変わってマジメな声で、

狛犬あ  
かん  
その子の名前を答えなさい。

……！

かんの顔が、さつと青ざめる。  
が、はるととかのんはそのことに気づかない。

はると  
かのん  
なーんだ、ぜんぜんカンタンじゃん。  
ねえ、かん。名前、おしえてくれる？

しかし、かんはきつぱりと首をふつた。

かん  
…ダメだ。

ダメ？

ダメって、どういうこと？

名前は教えられない。

なんでだよ。べつにいいじゃん。

（それには答えず）おい、ズルいぞ！オレたちが答えられないの知ってて、問題にしやがって！

そうではない。もしお前たちが、本当にその娘のことを大切に思うなら、答えは見つかるとは思わない。

さあ、その子の名前を答えなさい。

それは…。

狛犬あ  
かん

答えられない、かん。

その時、遠くから、りひとの声が聞こえて来た。

りひと  
（声）  
ハルー！

はいちちゃん…？

りひと、出てくる。

なんだ、お前。こんなところにいたのかよ。

なんで、ここに？

お前がいつでもどこに行ってるのか、気になってたからさ。手伝いサボって逃げてきた。…うわあ、ぼつろい神社だなあ…。これ、いつからあるんだ？

ごめん、いま、オレいそがしいんだ。  
え？

そう言うとは、はるとはかんにかけ寄って、

ねえ、おねがいでよ。目をなおしてあげたいんでしょ！

そうよ！（少女に）ねえ、あなたもおにいちゃんに言っておいてよ！  
お前らさ…。

その様子を見ていたりひとは、恐る恐る…といった様子で声をかける。  
りひと …だれと話してるんだ？

はるとかのんは、顔を見合わせる。

はると だれって？

かのん 女の子よ。そこにいるでしょ。この子、目が見えないの。

りひと 女の子？

はると この子の目をなおすには、泉の水がいるんだよ。

かのん でもこの子の名前がわからないと、トビラをあけてくれないの。

はると あいつら、イジワルなんだよ。

りひと 待て待て待て！落ち着けよ。ここには、お前とかのんちゃんしかいないぞ。

またポカンとする、はるととかのん。

はると …え？

りひと 二人だけだ。

かのん でも、いるよ！

はると かんは？にいやんとおなじくらいの男の子だよ。

りひと いない。

かのん コマイヌとコマネコ！

りひと なんだよ、コマネコって。だいたい、石はしゃべらないだろ。

はると それじゃあ…二人は…。

はるととかのんは、ガクゼンと少女たちの方をふり返る。

かん ……。

狛犬 ……答えが分かったら、また来てください。私たちは待っています。

あ・うんは、静かにそう言うのと去っていく。

はると ちよつと待ってよ！

りひと おい、ハル。

はると ジヤマしないでよ！

追いかけようとするはるとだったが、もうあ・うんたちの姿はない。

はるとは今度は、かんにかけ寄って、

はると ねえ…かん！

かん ……。

はると ねえってば！

りひと いいかげんにしろよ！

めずらしく声をあげたりひとに、はるとはビクリとする。

りひと お前、オレをからかっているのか？なんの遊びか知らないけどさ、つまんないことす

るなよ。

はると

りひと  
こんな時に、お前ばっかり一人で勝手なことしてさ……。そりゃ、父さんは好きにさせとけつて言つてたけど、本当はさ……。本当は父さんだつて、お前にそばにいて欲しいんじゃないの？

はると

りひと  
……。母さんがいなくなつてさびしいのは、お前だけじゃないんだぞ。

そう言うのと、りひとは返事も聞かずに、かけて行つた。

かのん

ハルくん……。

はるとは何も言えずに、ただ座りこむしかなかった。

## S 5

### 神社の中の秘密の入り口の奥の秘密の扉の前・その後

ちよつとの間、みんなはだまりこくつていた。

やがて、かのんは意を決したように、かんに声をかける。

かのん

かん……。

かのん

おしえてくれる？ どうして名前を言えないの？

かんは、しかたないというように、ポツリポツリと話し出す。

かん

オレたちは……もうずつとずーつと昔、この村に住んでたんだ。でもそのころ、村はともまらずしくてさ……。とうとう食べ物がなくなつたある年の冬、父ちゃんも母ちゃんも死んじゃつて、オレはこいつを連れて村を出たんだ。きつとどこかに、オレたちが幸せに暮らしていける場所がある。そう思つて歩いて、歩いて、歩き続けて……。気がついたら……。こうなつてた。オレも、妹も。こいつの目が見えなくなつたのも、その時さ。たぶん……。見たくないものが多すぎて……。

かのん

ただ一つ良かったのは、こいつがああ頃のことを覚えてないことだ。楽しかった思い出しか残つてないんだ。でも、もし昔の名前を聞いたら、あいつらかつた日を出すかもしれない。だからオレは、名前を言うわけにはいかないんだ。そうだつたんだ……。

かのん

はるとは少女に話しかける。

はると

ごめんね。

少女

なにが？

はると

たすけてあげられなくて。

少女

……？

はると

目をなおしてあげたかつたんだけど、でも……。

言葉を続けられない、はると。

少女  
いいよ。

少女は、まるで気にしていないかのように、何気ない口調で、  
だつて、わたし、へいきだから。

その言葉に、はるともかの人も驚く。

かのん  
へいきなの？

少女  
うん。

かのん  
どうして？

少女  
だつて、ぜんぶここにあるもん。きれいなおはなも、あおいおそらも、みんなのか  
おも……。おとうさんも、おかあさんも、おにいちゃんも……。みんなみんな、わらつて  
る。わたしのだいすきなものは、ぜんぶここにあるから。

はると  
……。

少女  
だから、へいきなんだよ。

はるとは、少女のことをまじまじと見つめている。

はると  
すごいんだね。

少女  
そう？

はると  
うん。

はるとはちよつと考えて、

……ぼくには、できそうもないよ。

その話を聞いていたかのんは、ふといいことを思いついた。

かのん  
ねえ、だつたらさ……。わたしたちで、あたらしい名前をかんがえない？

かん  
あたらしい名前？

かのん  
そう。これからの毎日のための名前。だつて、友だちを名前で呼べないなんてや  
だもん。そうしたら、むかしのことをこわがらなくていいでしょ？

かん  
……。

かのん  
どう？

かんはそのアイデアをちよつと考えて、やがてうなづく。

……そうか、それは気づかなかったな。

そして少女を見ると、

かん  
それで、いいか？

少女  
うん、いいよ。

少女は迷わずうなずいた。

かのん  
でも、どんな名前にする？



かん ハル、決めてくれよ。  
はると ぼくが？  
かん お前の好きな名前でもいいから。  
はると 好きな名前…。

はると そう言われて、はるとはすぐに、ある人の顔を思い出した。  
だつたら、いい名前があるよ。ぼくの、大好きな人の名前なんだ。あたらしい名前  
は…。

はるとはみんなを集めると、その名前をそつとささやいた。  
その時…かすかに水の音が聞こえてきた。

かん これって…  
みんな 水の音だ！

狛犬 ああん、再び出てくる。

狛犬 あ おめでとう。扉は開かれました。さあ、泉の水を汲みなさい。あなたが癒やしたい、  
はると だれかのために。  
うん！

みんなは泉にかけ寄ると、かんが水をすくい、少女に差し出す。  
少女は手を出して、それを受け取ると、ひと口飲む。

みんなは息をのんで、なにか起こるか見守っている。  
少女はあたりを見回して、かんに目を止めると、

少女 おにいちゃん！

かんは、うれしそうに笑うと、少女の頭を優しくなでた。  
それを見届けて、はるとはちよつと遠慮がちに、

はると ねえ、この水…ちよつとだけでもいいかな？あげたい人がいるんだ。  
狛犬 あ …ええ、いいですよ。あなたの手のひらに、くめるだけなら。  
はると ありがとう！

はると はるとは急いで水を汲むと、みんなを振り返り、  
ぼく、ちよつと行つてくる！

そう言つて、はるとはかけ出していった。

かのん この水で、なおるかな。  
狛犬 あ ……。  
かのん みんなのキズは。

かのんの言葉に、ああんは静かに笑う。

狛犬あ この水に、そんな力はありませんよ。  
かのん え？  
狛犬あ でもね、きつと大丈夫。あの子は、一步を踏み出したのだから。  
かのん ……  
狛犬あ だから、大丈夫よ。  
かのん うん、わかった。

かのん かのんはその言葉を信じて、うなずいた。  
そうして、わたしたちの小さな冒険はおわりました。泉の入り口はまたとじて、二度とひらくことはありませんでした。でもあの泉のフシギな力は、まだわたしたちの心の中にのこっているのです。きつと、これからも、ずつと。

## S 6 カチコチ村のさらに外れにある家

あいつも変わらず、バカみたいに元気な父と、死んだような顔のりひと、普通に元気なはるとがやってくる。  
それはいつもの光景だが、以前より、ちよつとだけ何かが変わったような気がする。

父 よーし、全員集合！  
りひと はい…。  
父 今日はこれから、新たに畑を耕すぞ！一日仕事になるから、覚悟をしておけ！  
りひと えーっ！？  
父 イナカ暮らしといえば、やはり自給自足が基本だ！家族仲良く、手を取り合って、支え合い、立派な畑を…どこへ行く！

こつそり逃げようとしていたりひと、あつさり捕まる。

りひと イヤだー！はなせーっ！  
父 死んでも離すかあつ！  
りひと ボーリヨクだ！ギャクタイだ！カジューロードーだ！  
父 こづかい、あげてやったろーが！

やがて、矢尽き刀折れ、取り押さえられる、りひと。  
が、はるとは、まるで何事もなかったかのように、二人に手を振る。

はると それじゃ、がんばって。  
りひと あ、ハル！どこ行くんだよ！  
はると どこつて…ともだちのどこ。  
りひと ズルイぞ、お前ばっかり！  
はると あしたはちゃんと、てつだうよー！

また暴れるりひとを、取り押さえつつ…

父 まあ、今日の仕事は、ハルにはちよつとキツイからな。  
りひと オレだつてキツイよ！

父  
りひと  
んく：お前はアニキだからな。しかたない。さつ、行くぞ！  
さーべーつーだーっ！

父はりひとを畑へと引きずっていく。  
かのん、出てくる。

かのん  
はると  
かのん  
あーあ：またかあ…。かわいいそう。  
あれでいいがいと、たのしんでるんだとおもうよ。  
そうかもね。

そう言っつて、かのんは笑う。

はると  
さて、それじゃあ…。

はるとは、今度は山の方へと向き直る。

はると  
おーい、みんな！

はるとの呼び声に応えて、歓声とともに出てくる、かん、少女、タマ。  
いつもの通り、遊び始める。  
やがて逃げてくるりひとと、追いかけてくる父。

これもまた、日々の光景の一つである。

幕